

第52回
平成28年度

「わたしの教育記録」 入選作品発表

主体的な学びを目指す
総合的な学習の時間の授業づくり

「忠海ジュニアガイドになろう」

岡山県笠岡市立城見小学校 山下喜子

(前任校 広島県竹原市立忠海小学校での実践)



1 はじめに

忠海という町は、広島県南中部に位置し、瀬戸の海が見わたせる黒滝山、うさぎで有名な大久野島がある。自然豊かで、城跡や町並みなど古くからの歴史も多く残る。

私がかつて勤めていた忠海東小学校は、平成26年度をもって閉校となり、翌年27年度からは隣接する忠海西小学校、忠海中学校と統合し、小中一貫校となった。忠海の景観保護、外国人旅行者や留学生の積極的な受け入れなどに行政も動き、町を盛り上げようと汗を流している地域の人々。町は今、変わろうとしている。

「忠海を舞台に、子どもたちがもっとワクワクするような授業をつくりたい」

私は忠海小学校3年生18名の担任となった。支えてくれている地域の方や子どもたちの成長に触れ、新しいことに挑戦したい気持ちが高まった。

そこで、3学期に「忠海ジュニアガイドになろう」という単元を設定した。地域の方との交流や調査を通して忠海の町の魅力を知り、ゴールとして子どもたちがジュニアガイドとなり、町を案内するというものである（ガイド本番では、約20名の地域の方が参加してくださった）。この

単元は、子どもたちの「主体的な学び」を実現することをねらいとしている。これは、全国的に広がっている「アクティブ・ラーニング」——広島県で言うと、「学びの変革アクションプラン」を意識した取り組みにもなっており、地域の活性化もねらっている。

2 主体的な学びを引き出すための単元構成

主体的な学びを引き出すため、特に二つのことを意識して計画した。

(1) 「学びたい！」と思える課題の設定

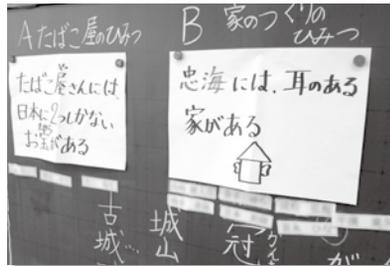
子どもたちが興味を示す魅力がこの町のどこにあるかを探るために、地域の歴史をよく知っておられる新本直登さんの力を借りて、冬休みに教材研究を行った。新本さんは、町の歴史を研究されているとともに、ご自身も週1回観光客を対象にボランティアガイドをされている。子どもが学習する視点で、興味をもつような場所を一緒に探しながら町を調査した。そして、「忠海〇×クイズ」を6問作り、単元の導入で扱うことにした。

(2) 体験と言葉をつなぐ学びの連続性を意識する

『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時



→新本さんのガイドは、とてもわかりやすい

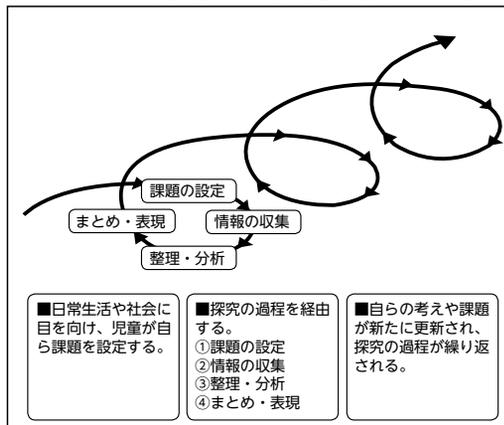


←〇×クイズで忠海の町への興味を高める

間編』では、探究的な学習を行うために資料①のような学びがスパイラルする学習過程が大切であると書かれている。忠海ジュニアガイドの単元は、1回の調査で終わらず、課題をさらに追究できるよう、現地に足を運ぶ機会を計3回設定した(資料②参照)。1回目の調査、整理・分析、2回目の調査、整理・分析、3回目の調査(ガイドのリハーサルを兼ねる)の3サイクル行うことで、学びのつながりや深まりを意識させた。

また、教室での整理・分析(白本づくり、ガイドの準備)には、新本さんに関わっていただき、子どもたちの疑問にも相談に乗ってもらえる場づくりを行った。

〈資料① 探究的な学習における児童の学習の姿〉



3 主体的な学びの姿 〜Aくんの姿から〜

Aくんは難しいことに挑戦するのが好きである。導入の「忠海〇×クイズ」では、特に、「たばこ屋さんのお宝」について興味を示した。

その翌日のことだった。「先生、昨日の答えわかったよ！ アメリカカのレジだったよ！」と、Aくんが嬉しそうな顔をして、私のもとにやってきて言った。話をよく聞いてみると、前日の放課後、友達二人と河端たばこ店を訪れ、お店のおばあちゃんに自動金銭登録機(レジスター)を見せてもらったそうだ。

〈資料② 単元計画〉

「すてきな忠海再発見～忠海ジュニアガイドになろう」

【単元の目標】

◎ジュニアガイドになって忠海の町を案内する活動を通して、自分たちの町のよさを改めて実感する。自分たちの取り組んだことが、地域のためになっていることに気づき、さらに自分たちにできることについて考えることができる。

【付きたい力】(夏休みに本校で話し合った重点をおきたい力)

- ◎スキル…思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力
- ◎意欲態度…主体性・積極性、チャレンジ
- ◎価値観・倫理観…自己理解・自らへの自信、高い志



アメリカのレジスター
日本にはたった二台しかないと言われるお宝

← 今後授業でたばこ店を調査する予定にしていたが、それを待たずに自ら調べに行ったことに驚きと喜びがあった。自主学習ノートにインタビューしたことも書いてあった。「でも、耳のある家は見つからなかった。どこにあるのだろう」と、解決できなかった点については悔しがっていた。「〇〇くんの家の近くにあるよ」とヒントを与えると、次の日も喜んで調査に行っていた。Aくんの影響で、他にもたばこ店を訪れる子どもが出てきた。

「たばこさんのお宝は、レジスターだけではなかった!」「耳のある家は、いったい町の中にくつあるのだろう」と、私が提示した〇×クイズが、次第に子ども自身が立てた課題へと変わっていった。

4 主体的な学びの姿 〜Bくんの姿から〜

学級には、友達と積極的に関わったり、進んで学習をしたりすることが難しい子どももいる。Bくんは、「忠海ジュニアガイド」の学習を始めても意欲は見られず、ワークシートに書けないことや、活動中みんなの輪から離れていくこともあった。そんなBくんが、忠海の町に古くからある「カシコ時計店」の学習を通して、少しずつ変わっていった。

〈行くたびに姿を変えていく「カシコ時計店」〉



第2回目の調査／シートがかけられ解体工事が始まる



第1回目の調査／壁の「店計時コシカ」がシンボル。この時、建物はまだ現存



第3回目の調査（兼リハーサル）／建物は取り壊され、床タイルが一部壊れるだけとなる

1回目の調査の時に、カシコ時計店が近々取り壊されるということを新本さんから教わった。2回目の調査では、建物全体にシートがかぶせられて、時計店の姿を見ることはできなくなっていた。なくなることに実感がわかかなかったが、いざ工事が始まった現場に立ち会い、「ああ、本当になくなるのだな」とBくんの心にも訴えるものがあつたようだった。

その1週間後、Bくんが教えてくれた。「先生、本当に、カシコ時計店がなくなつた……。」と。Bくんは2回目の調査後も、時計店がどうなつていくのか自分で様子を確かめに行っていたらしい。学習に後ろ向きであつたBくんが、変わったと感じられた瞬間であつた。『本当に』という言葉から、「なくならないでほしいかった」というBくんの気持ちが伝わつてきた。

3回目の調査では、なくなつてしまつたカシコ時計店跡地を訪れた。Bくんは誰よりも先頭を歩いてそこへ向かつた。「もうなくなつとるんよ」つぶやきながら。

この日は、近所に住む大本さんが偶然その場を通りかかり、貴重なお話を聞かせ



大本さんとの出会い

てくださった。大本さんの家もこれから取り壊されるのだそうだ。「立ち退いてくれ」と言われても、思い出のある家をそう簡単に立ち退くことはできない。ご先祖様がずっと残してくれた家をなくすなんて本当につらい。涙を浮かべながら話してくださつた思いに、Bくんをはじめ子どもたちは真剣に耳を傾けた。

〈Bくんたちの「カシコ時計店」グループが考えた台本〉

カシコ時計店

- () この写真を見てください。
- () この写真に写っている建物は、「カシコ時計店」です。
- () このカシコ時計店には、古くからの歴史があります。
- () 約60年前に建てられて、ずっとがんばつてきた建物です。
- () しかし、今はもうありません。先月取りこわされてしまいました。
- () あそこが、カシコ時計店があつた場所です。行ってみましょう。(移動する)
- () みなさんは、なぜ、取りこわされてしまつたのか知っていますか。(問をあげる)
- () それは、広い道路をつくるためです。
- () カシコ時計店に住んでおられたカシコさんは、「この店がなくなるのでさみしい」と言つておられました。今、カシコさんは、となりの家に住んでいます。

() ぼくは、カシコ時計店がなくなっちゃったことが悲しいです。道路ができて、べんりになりましたが、古い建物は大切にしたいと思います。

() わたしは、建物がなくなっても、思い出は心に残しておきたいです。みなさんの記おくの中にも、残してほしいと思います。

() ご意見やご感想があればおねがいします。

() これで、わたしたちのグループのガイドを終わります。

「ずっとがんばってきた建物」というところに、子どもの純粋な感情が伝わってくる。また、「建物がなくなっても、思い出は心に残しておきたい」ということから、新本さんや時計店のカシコさん、大本さんから聞いた思いをしっかりと受け止めていることが伝わってきた。

Bくんは友達と何度も何度もガイドの練習をした。以前は、なかなか学習に向かえないBくんだったが、「先生、覚えたので聞いてください」「先生、少し変えたので聞いてください」と、ガイドの本番に向けてやる気を見せるようになった。当日は、インフルエンザが猛威



Bくんのガイド～時計店跡地にて～

をふるい、相方が休んでしまったが、Bくんは友達の分まで堂々とガイドをすることができた。

5 主体的な学びの姿 Cくんの姿から

主体的な学びを目指した授業づくりのおもしろさは、教師の発想を子どもたちが超えたときに味わえる。

校内学習で、新本さんが古い忠海の町のビデオを見せてくれた。今よりもどかな田園風景の中をJRが走っていた。それを見た電車好きのCくんが、「昔の駅のことを調べたい!」と言った。他にも、「昔の電車の切符が家にあるから持ってきます」と言う子どももいた。「駅」のガイドについては、私の計画の中には入っていなかったが、思い切って「忠海駅」をガイドの中に組み込むことにした。その結果、Cくんが自分の知識や持ち味を発揮している姿を見ることができた。

グループでの話し合い

() クイズを出すときに、この切符を使おう! 画用紙に貼って見せながらガイドしよう。

() 小さかったら見にくいから、切符を拡大した写真にして貼ろう。

(略)

(C) 8時48分と、9時1分に忠海駅に電車が着くから、その時に駅でガイドをしたら、人

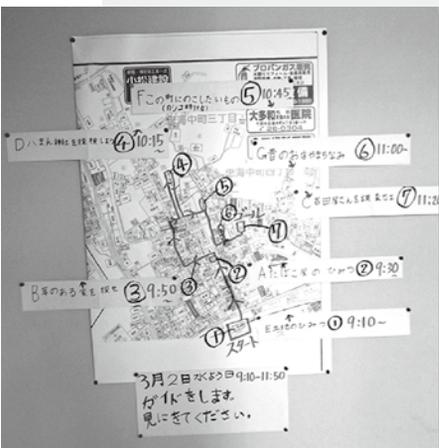
がたくさん見てくれるんじゃないかな。

() いいねえ! 先生、この時間にガイドがしたいです。

() 「ジュニアガイドをします!」っていうポスターを作って、駅に貼ったらどうかな。

Cくんたちのグループは、ガイドを成功させるために、知恵を出し合いながら一生懸命話し合っていた。特に、前掲の太字の言葉は、電車好きで、電車のことなら何でも知っているCくんだからこそ出てきた発想であった。

電車の時刻表を家から持ってきて、私にも説明してくれた。当日のガイドは、「飛び入りです!」とその場に居合わせた人たちの参加もあった。さらに驚いたことには、Cくんのお母さんがJRに乗って、その時刻にかけつけてくれたことだ。「お母さんが、JRに乗ってぼくらのガイドを見に来てくれた!」。Cくんはすごく嬉しうだった。



忠海駅をスタートし、上のようなコースで順に担当グループが説明する。町の中心部を一回りする行程

6 終わりに

主体的な学びを実現するために、たくさん
の時間と回り道があったが、子どもたちが「こ
うしたい」「学びたい」とワクワクしながら学
ぶ姿にたくさん出会うことができた。特に、D
さんの綴ったふり返りには、この学習での学
びが言葉として表れていた。

今後とも私自身が学び手となり、子ども
たちの主体的な学びを広げていきたい。

■ Dさんの第1回調査後のふり返り

この町には、お宝がいっぱいあることが分
かりました。忠海は、お店が少なくてさか
えていないと思っていたけど、お宝がいっぱ
いあってびっくりしました。

昔と今とで、町なみがぜんぜんちがうこ
とが分かりました。海が近くまであったり
、お店が多かったりと、昔の方が楽しそ
うだなと思いました。でも、一つ変わって
ないところがありました。それは、人々のや
りばい、生活を工夫することです。これか
ら、今のことも昔のこともどんどん調
べていきたいです。

■ Dさんのガイド本最後のふり返り

わたしは、忠海の町が好きです。それは、
一生けん命忠海の町がさかえるように、にぎ
やかにしようとしてくれる人がいるから
です。

最近、昔ながらの建物を「わけてい
つて」中、昔のものを「生けん命守つて
いる人」がいることが分かりました。

町でのくらしを工夫して、人と人が手
を取り合っで生活してきたことが分かつた
ので、わたしも「この町を元気にし
たい」と思いました。

■ 子どもたちの作った歌を新本さんに届ける

「ほくらの町 忠海」

作詞：忠海小学校3年生

1. みんなで歩いた 古い街並み
たばこ屋さん 耳のある家
人と人が 手を取り合っ
てこの町を 支えてきた

なくなるものも あるけれど
なくしちゃうけない ものも
ある

この町の 優しい心
人の熱さ あふれる笑顔
幸せ続く 思い出の町
次はほくらが つないでいく

2. 長い石だん かけあがり
大きなすのき かこんだね
声をふるわせ 語ってくれた
あの想い 今でもむねに

なくなるものも あるけれど
なくしちゃうけない ものも
ある

この町の 優しい心
人の熱さ あふれる笑顔
幸せ続く 思い出の町
次はほくらが つないでいく



受賞の言葉



岡山県笠岡市立城見小学校 山下喜子

この度の受賞を大変有り難く思っており
ます。新採で「あすなる学習」の実践を
応募した際、大きな自信をいただきました。
それから、二年、記録に残せるような実
践を重ねていこうが私の原動力となっ
ています。

「学校はなくなってしまうけれど、子
どもたちのためにできることがまだあ
る」。赴任先が統合した忠海小学校に
決まった時、心熱くした私がい
ました。

「忠海ジュニアガイドになろう」は、
地域で歴史を調べておられる新本直登
さんのご協力によって実現できた実
践です。私一人ではできないことは
小さいけれど、本気で関わってくだ
さる新本さんのお陰で、新しいことに
挑戦することができました。主体的な
学びを目指すには、時間も労力もか
かりますが、「この町が好き！」「こ
うしたい！」「こうしたい！」と変
わっていく子どもたちの姿を見ると、
授業研究は楽しくやりがいを感じまし
た。今後もジュニアガイドが忠海
の町で活躍することに期待が膨ら
みます。

私は現在岡山県の教員として働いて
います。この実践を通して学んだこと
を、岡山の地でも活かしていきたい
です。

支えてくださった忠海学園の先生
方、地域の皆様により感謝いたしま
す。